「だいでん反対しよる。なんで再稼働さすっちゃろうか」
玄海原発再稼働県民説明会：住民の疑問と怒り噴出
各地で生活者の声をあげよう!

2017 年 3 月 5 日

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
永野浩二
〒840-0844　佐賀市伊勢町 2-14
TEL：0952-37-9212 FAX：0952-37-9213
saiban.jimukyoku@gmail.com
http://saga-genkai.jimdo.com/

2 月 21 日から 3 月 3 日まで、玄海原発再稼働に関する佐賀県主催の県民説明会が県内 5 か所で開かれました。

私達は全県下で地区ごとの開催、公開討論会の開催等を求めましたが、すべて無視されました。

各 1000 人強の規模の会場でしたが、広報もろくにされず、身分証を提示した佐賀県民だけが入場を許されました。参加者は唐津市 192 人、武雄市 117 人、佐賀市 234 人、伊万里市 388 人、鳥栖市 117 人でした。

5 回の県民説明会で、以下のことが明らかになりました。

1. 九電と国が住民の命を犠牲にしてでも、経済や江エネルギーを優先しているということが明らかになった。
2. 九電と国と県が、住民の声にまったく耳を傾けないこと、この酷さと怒りを各地の住民が肌で感じ、共有することができた。
3. 住民の参加や発言が非常に制限された中だったが、県民は再稼働にまったく理解していない！ということを、九電と国と県に示すことができた。参加していた市町長や議員らもこのことを無視できまい。
4. 日頃の行動に参加できるのは多くないが、その背後にはこれだけの人の思いがあるということが誰の目にも明らかになった。私達の要請行動の際に、これは大きなチカラになる。

これでただちに止まるわけではありませんが、**この無残な説明会の現実を 1 つの大きな材料、ステップとして、今後にどんどん活かしていけると思います。各地で開いた事前学習会をはじめ、これまでのすべての要請、宣伝、傍聴、学習等の行動が大きな財産になっていると感じました。継続していきましょう。**

再稼働反対の世論づくりは、今まさに進行中です。

佐賀県民 83 万人のうち、説明会に参加できたのはわずか 1048 人。佐賀県内で説明の場をさらに要請していきましょう。

3 月 23 日には福岡県糸島市で、長崎県でも 15 日に松浦市鷹島、16 日に松浦市、18 日に平戸市、19 日に佐世保市、21 日に壱岐市でそれぞれ説明会が開催されます。

糸島、長崎のみなさん、説明会場でぜひ普通の生活者としての声をあげてください！

また、放射能に県境や国境はありません。各地での説明会を開催させましょう！

以下、当日書いたレポートを順に紹介します。

【1】「“フクシマを踏まえて”などと軽々しく言うな！」「道理に反している！」～2／21唐津説明会

佐賀県民しか入れず、私たちは身分を証明するものを提示しなければなりませんでした。

福岡の皆さんは入れず、寒空の中チラシ配りにだけ来ていただき、本当にお疲れ様でした。

質問は 1 人 1 分。4 つの資料 192 ページに及ぶ説明を、「時間の都合ですみません。飛ばしまして」と、あっさり飛ばすページが多く、住民には何が何だかわからないまま、一方的に「玄海 3・4 号機は安全です」の会となりました。
沢山の方が手をあげていましたが、まともな回答は無くはぐらかし、会場の住民は皆怒りの声ばかりでした。
時間がないことを理由に、たくさんの方が質問できないまま終了しました。

会場は反原発の皆さんが多く、今回は九電の動員はなかったようで、ガラガラ状態でした。
中には推進派や、地元住民もおられたかもしれませんが、なにより主催者の県からの広報が不十分ではなかったかと思います。
これで、「住民に説明した」とされては困ると思いました。
以下、会場のやり取りの一部を紹介します。

==========
●会場質問)再稼働する理由はなぜですか？
エネ庁）電気は足りているように見えるが、コストはかかっている。CO2 も・・全てのエネルギーも長所短所ありまして…それを踏まえて一定程度原子力を行わなければならない。
九電）原子力の安定供給には原子力は必要。安定というのは皆さんのご自宅というのもありますが、企業の電気も必要だから。

●会場）原発を作るとき、放射能は出さないと言ってきた。動いてから放射能が出るとわかった。その時から止めてくれと言い続けてきた。事故が起きたら大変だと言ってきた。そして、事故が起きたら 20 兆円もかかっている 。見当もつかない金額だ。ウソついて建てたんだから原発は止めるべきだ。
安全だから立てさせてくださいというのはあっても、危ないから立てさせてくださいという企業があるのか？
世の中の道理に反してる！
九電)絶対事故は起こしてはならないという気持ちで、安全対策をしっかりしていきますので、ご理解をお願いしたい…。

●会場）スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマ、原因はそれぞれ違う事故は想定外です。ミサイルもありうる。これをどう考えているか？
・九電）想定外を想定外でないように、フクシマでもそうでしたが、想定外をよく考え科学的に考え、本当にそういうことだと根拠をちゃんとした後で、想定の中に取り込んで今回の規制基準はなされたと思っている。想定外を想定外にしないようなこと、ミサイルのこともございますが、そういうこともあるのかという確率の計算の中から対策をして、いろんな知見も入れながら、国防も考えながら、想定外をできるだけ小さいものに持って行くのが大切と思っている。

●会場）フクシマを教訓としてとか踏まえてとか、たくさん出てきたが、あなた方は本当にフクシマの教訓を踏まえているか？軽々しく言うな。福島の人は怒りますよ。本当にフクシマの教訓を踏まえているというのなら、再生エネルギーにシフトすべきではないか。なぜ再稼動か、国や九電の都合ではないのか？
・エネ庁）フクシマを踏まえて、世界最高水準の規制基準を作った。エネルギー基本計画の中でも最大限再生可能エネルギーの導入を考えている。

●会場）万が一の時に責任はどうとるのか。（お金以外の面で）
・エネ庁）プラントはしっかりと安全に事故が起きないようにするのは、まさに事業者の九電の責任である。万が一事故が起きた場合に国民の生命財産、あるいは身体を守るというのは国の責務でありまして、関係法に基づいてしっかりと対応する。
・九電）玄海原発の安全性については、当社が第一義的責任を負っている。今回安全対策を取りましたが、絶対に絶対に使わないような心構えで、しっかりと運営していくつもりだ。

＜閉会挨拶＞
●山口佐賀県知事）今稼動している、していないかかわらず、佐賀県には玄海原発がそこにあります。使用済み燃料も同じです。我々は常にそれに向かわなければいけない。私は責任者としていつも考えている。
今ここになかったらということであれば、私の判断というものは決まっている。
今あそこに、佐賀県が受け入れた原発をどのように対応していくにか極めて重要で、我々の背負った大きな課題だと思っている。
ですから今日来ていただいた国や事業者にしっかりと、彼らの動向を注視し対応していかねばならない。
時間が足りないというのはよく分かる。申し訳ありません。様々な形でご意見を伺いたいと思う。

【2】「水蒸気爆発想定　審査せず」～2／22武雄説明会

参加者は 1300 人の会場に 117 人の参加者で、席がスカスカでした。
武雄市は原発 30 キロ圏にすっぽり入る伊万里市と隣接していますが、ちょうど 30 キロ圏から外れたところにあります。
早めに来ていた男性に聞いたところ、「区長会で話があって、関心持った人は行ってみて」ということで、それらしい年配の男性方が複数来ていました。
地元だけに積年の反原発の思いが前面に出た唐津とはまた違って静かめでしたが、そもそもの質問とあわせて、技術内容に立ち入った質疑もありました。
水蒸気爆発のことなど、報道も通じて、住民の前に問題が明らかになったこともあります。
会場外でのチラシ配布、今日もおつかれさまでした。
以下、印象に残った質疑を大雑把ですが書き記します。

●水蒸気爆発の問題が連続して質されました。
・質問）水蒸気爆発の危険性は？
・規制庁）相当な時間を割いて審査した。海外含めてかなり実験をした。水蒸気爆発が起こることは危険性は少ないということで確認した。
・質問）最悪の事態が想定するのが基本姿勢だと思うが、水蒸気爆発が起きた時にそれで耐えられるのかどうか確認しているのか。
・規制庁）水蒸気爆発が起きる想定をしていないので、その影響を審査で確認しているわけではない。
　※「水蒸気爆発想定　審査せず」は 23 日の佐賀新聞記事の見出しにもなりました。

●質問）株主総会だって 3 分。私達の命の問題です。1 人 1 分に制限するこのやり方はなんだ？
・司会）公平に、ということで決めたルールなので…
・誰が決めたんですか！

●質問）会のやり方について意見がある。広報が不親切だ。情報をちゃんとおばあちゃんたちにも届けるべきだ。一方的に言われても理解できない。なぜ佐賀県が壇上にいないのか。
原発事故はとりかえしのつかないことになるが、なぜ再稼働か。「みなさん逃げてください」という計画をおしつけられているが、避難計画は国も九電も自治体を支援するというがどういうことか。
・エネ庁）資源にとぼしいわが国では安全性の確保を大前提に、エネルギーの安定供給。安全保障、発電コスト。エネルギー自給率、二酸化炭素…
・内閣）国が支援、財政的支援もしっかり…
・県危機管理報道局長）私が県として座らせてもらっている。国と一体となって、避難計画の向上を目指している。（※発言はこれだけ。名乗りもせず座っていただけ。）
・九電）事故を食い止めるためにしっかりやっている。お知らせの体制。細かい活動は国、自治体にやっていただいている。
・質問）逃げたくないと言っているんです。命と経済を一緒にしないでください。
・九電）とにかく安全運転に努めるということでございます。

●質問）「よろしくお願い」されたくない。原発は動かしてほしくない。再生エネルギーはたくさんある。
「放射性物質を抑えるための対策」といったが、「できるだけ」とはどういうことか。私は被ばくしたくありません。
・内閣）できるだけ浴びたくないというご質問ですが、計画では…
・九電）太陽光では夜はどうなるか、化石燃料の輸入に頼らざるを得ない。高いものより安いものだ。
・九電）輸入燃料が増えて、当社の経営も大変厳しい状況でして…

●質問）強行採決ならぬ強行説明会だ。こんな膨大な資料をいきなりわたされてもわからない。
●質問）再稼働するための説明会ではないか。安全なら東京の真ん中につくって！
・エネ庁）エネルギー基本計画に沿って…（以下同文）

【3】「福島事故は終わっていない」「知事の同意権放棄は無責任」

私達の仲間も各地で質問しました。そのうち唐津と武雄での2つのやりとりを紹介します。

①規制庁の基本姿勢。「福島原発事故は終わっていない」
唐津では、前半の質問の 4 番目に指されました。
委員長の姿勢を問うつもりで、チラシもつくって整理していたつもりでしたが、「1 人 1 分 1 問」と言われ、頭を整理し直している間に指され、少し焦ってしまいました。
何せ、「スタート」「あと 30 秒です」「10 秒前です」「終わってください」の大きなプラカードを持ったスタッフが 1 分間に 4 人、クルクル交代で出て来るんです！
市民をバカにしていると思いました。
クルクルプラカードは唐津では 4 枚でしたが、武雄では「あと 30 秒です」「終わってください」の 2 枚に減っていたのは笑えました。さすがに不評でやめたんでしょう。
福島のことがまだ質問でも出てなかったので、最初に福島のことを触れました。

●質問）1問ということで基本姿勢について問いたい。"福島原発事故に学んで"というが、原発事故は終わってませんよね？原子力緊急事態宣言は発令中ですよね？現場検証もできていないですよね？このことを確認したい。再稼働はありえないのでやめてほしい。
16 日に佐賀新聞に田中委員長のインタビューが出たか、『5 キロ圏外は被ばくしない』『心配する住民に我々は迎合しない』『住民は自ら勉強しなければならない』…住民をバカにしないでくれと言いたい。撤回してほしい。
『やらせなど一回染みついた文化は直らないと思う』、規制当局トップの発言として許せない。
・規制庁）福島は緊急時の状況が法律上も続いているのはそのとおりだ。調査もまだしているし、汚染水の問題もあり、緊急時の状態なのは、そのとおりだ。他方で、福島事故がどうしてあのようになったのかは、地震津波の影響であり、それをくみ取って基準をつくったのが今の状況だ。
委員長のインタビューは見ていないが、委員長はこれで安全だと思ったら慢心になってしまうからということで戒めている。
やらせについては、安全文化を気付くよう、委員長が社長とも会って話している…。

②知事の同意権放棄問題
武雄では、今後重要と思われる同意権問題に絞って質問しました。

●質問）国と九電と県に聞きたい。知事は 14 日の会見で「もともと地元同意なるものは存在していない、概念として存在しないことが国と確認された」と言った。県民の命を守るのが知事の一番の仕事と思うが、なぜ、みずから同意権を放棄するのか。国策であれば、唯々諾々と従うのか。昨日の新聞で知事は「今、同意権の話をすれば、再稼働と向き合う時間がなくなる」とコメントした。再稼働と向き合うからこそ、同意権を確立することが今こそ必要なのではないか。地元の同意もとらずに、再稼働を進めるのか。九電は川内の時に

は鹿児島県と薩摩川内市とで安全協定に基づく同意を得たじゃないか。なぜ違うのか。
・九電）鹿児島と佐賀とで同じ位置づけでやっている。同意とか同意なしと関係なく、ご理解を得て、再稼働したい。理解活動をしっかり進めたい。
・エネ）法令上は同意権というものはございませんで、再三申してますように「理解活動に終わりはございません」

再質問）昨年3月21日の佐賀新聞に市長町長へのアンケートでは16市町、8割が「地元同意の範囲拡大」を求めている。せめて30キロ圏に広げてほしいという意見、全市町に広げてほしいという意見もある。ここ武雄の小松市長も、鹿島市、嬉野市、多久市、杵島郡の全町、太良町、県南すべての市町が拡大を求めている。そういう声を、国と県はどう受け止めるのか。無視するのか。
・エネ・九電）（同じような答え）それぞれの地域の状況に応じて…
・副知事閉会挨拶）同意について、国が言ったとおりでございます。県民の理解が何よりも大切ですので、県民のみなさんにご理解いただきますようしているところでございます。
様々な意見があることは承知しておりますが、基本は何よりも県民の安全でございます。専門部会でも議論しているし、HP専用ページも設けたし、意見箱を各地に設置したところだが、意見を聴くというプロセスを大切にしていきたいと思っております。

※佐賀新聞で、出席していた嬉野市長の「はっきり言われて驚いた。事故が起これば我々も避難する立場であり、同意を取ってほしい」というコメントが掲載されました。

★説明会は推進側の"アリバイづくり"にすぎませんが、この機会に私達の「原発いらない」の気持ちをまっすぐ表明し、具体的な問題を質していくことで、その酷さを明らかにしていきましょう。

【4】「だいでん反対しよる。なんで再稼働さすっちゃろうか」
～2／27 佐賀説明会、2／28伊万里説明会

「私は伊万里が大好きです」（伊万里会場）
核ゴミ10万年の管理、費用は誰が？九電「国が」、国「事業者が」。無責任さ露呈！（佐賀会場）

再稼働についての佐賀県主催県民説明会。3回目が27日に佐賀市で、4回目が28日に伊万里市で開かれました。
伊万里市での参加者は388人。唐津市192人、武雄市117人、佐賀市234人、と比べて、市民の関心の高さが際立っていました。
伊万里市は県に対して「市でも広報しましょうか」と尋ねたところ、「広報は県がやるから、市でやらなくていい」と言われたそうです。しかし、市民からも要望もあり、急遽回覧板を独自に住民にまわしたそうです。
首長の姿勢1つでこんなにも違うのです。

両会場とも、質問は「福島原発事故は終わっていないじゃないか」「再稼働ありきだ。おごりだ」「避難計画は実効性ない」「避難計画までいるような電気はいらない」「被ばくしたくありません」など、すべて「再稼働に疑問、反対」の立場からでした。
同じことの繰り返し、はぐらかしの国と九電の無責任さに対して、不信の念が市民から噴出しました。

佐賀市では、高レベル放射性廃棄物は何年保管するつもりか？」という極めてシンプルな質問に対し九電は、「保管する計画はない」として年数は答えず「国の管理で」と答えました。一方、国は「10 万年かかる」として、費用は「事業者が負担」と答えるなど責任をなすりつけあいました。

伊万里市では「自分は伊万里が大好きだ。住めなくなると思うと恐ろしい」「あるおばあちゃんも『だいでん反対しよるやろう。市長はもっと強く言わんのか』と言うぐらい、伊万里市民は塚部（市長）さんが言ってくださったことで、みんな勇気をもって「なんで再稼働さすっちゃろうね」と言っています。そこがなんでわかんな

いのでしょうか。」などの意見が相次ぎました。
最前列で傍聴していた塚部伊万里市長は、終了後「原発の安全安心とエネルギー問題は同列で論じられない。国と九電は参加者の不安や疑問に答えていない。再稼働反対の立場は変わらない」とコメントしました。

「再稼働反対！」の世論が今まさにつくられていっていると感じました。
これだけの圧倒的な反対意見を前に、佐賀県知事は「県民の理解が得られた」などと言えるわけがありません。しかし、自民党が大多数を占める佐賀県議会などで推進側は再稼働を強引に進めようとするでしょう。
自治体や議会などに対する働きかけをさらに強めていきましょう。
参加、発言されたみなさん、おつかれさまでした。
また会場内に入れないにも拘らず、毎回、会場に駆けつけ、屋外でチラシ配布を続けてこられた福岡のみなさんも、おつかれさまでした。

◆以下、佐賀会場、伊万里会場のいくつかのやりとりを紹介します。
****
●核ごみ 10 万年の管理。費用は誰が払うのか？九電「国家管理で」。国「事業者の負担」（佐賀会場）
市民）高レベル放射性廃棄物は何年保管するつもりか？
九電）保管する計画はございません。まずは六ケ所再処理工場へ。今、国が処分地を検討している。
市民）何年保管するのかと聞いている。
九電）何年保管するかについては、結果的にそれが安全上問題ないまで…
市民）何年かかるかわからないと。その費用はいつ誰が徴収するのか？
九電）私達が負担します。
市民）福島では税金じゃないですか。九電が払うんですか？
九電）国家レベルで全体を管理して…
市民）では、国に聞きます。
エネ庁）地層処分する方向で、最終処分地を検討している。
市民）何年かかるかと聞いている。
エネ庁）10 万年地層に埋める。
市民）その費用はいつ誰が払うのか？
エネ庁）最終的に事業者の負担、電気料金をどのように負担するかは事業者で。
市民）いくらと見積もっていますか？
エネ庁）バックエンドは 3 兆円。
市民）10 万年ですよ。たった 3 兆円ですか。
エネ庁）国として原子力にかかわるコストの評価をやっていく。
市民）30 年前にトイレのないマンションと言われたが、いまだにかわらないということですね。
エネ庁）大変時間がかかるプロセスです。

●要援護者の避難は無理（佐賀会場）
市民）重い障がいをもった方のヘルパーをしている。即座の避難は絶対無理と思う。私にも責任が発生する。専用の車いすが必要な方もいる。クッションがないとだめな場合もある。現実から考えると、避難はまったく無理です。防災パンフが配られて「必要なら個別避難計画をつくるので申し出ろ」とあったが、今どのくらいの申し出があるのか？県がそこにいないのがおかしいが、答えて。住民を守ろうと思えば、すべての人にヒアリングすべき。九電の責任においてもすべきだ。
何よりも県民の安全が大事だというなら、県民の安全が確保できるまで再稼働できないですよね？
内閣府）無理に避難すると健康リスクが高まる方は屋内退避していただく。
市民）もし一人でいたらどうするんですか。細かく考えてからでしょう。
内閣）支援者の方も特定することもやってきていく。そうでない時も、地元の消防組織の方が支援していくと位置付けている。
市民）始まっているんですか？何人にやっているのか？
佐賀県）県危機管理監です。具体的な数字はもちあわせていない。市町がやっている。HPに出したり、個

別に答える。
市民）県としてはつくらないということか。
県）基本的には市町ですので、市町から話があったら具体的に支援を。
九電）自治体の避難を支援するという形で福祉車両を 21 台配備する予定。社員がお手伝いをするが、素人なので。訓練を通じて…

●「私は伊万里が大好きです」住民の声が相次いだ伊万里会場
・
市民）福島事故が起きたのに、おごりじゃないか。結局、泣くのは誰か。
規制）気持ちよくわかります。常に安全については向上したいという気持ちだ。
・
市民 ）全部リスクの話だったが、これだけリスクのあることをどうして進めるのか？
内閣）リスクはあります。しかし、他方でエネルギーの安定供給…
市民）私は伊万里が大好きです。伊万里に住めなくなると思うと恐ろしい。再稼働やめてください！
・
市民）九電は消費者に、被ばくを我慢してくれということで来られたのか？放射線を止められなかったのが福島事故ではなかったか？放射能被ばくをしたくありません。いまだに 10 万弱の人が帰られない。まずは福島の原因究明と収束を。再稼働どころではないはず。フレコンバックを見に行ったか？あれをどう思ったか？
九電）福島をよく見ており、同じ気持ちであります。福島のような事故は決しておこしてはならないという固い決意で取り組み、それでも万が一の場合に備えて、避難は国、自治体にやっていただいている。当社は安全運転と、万が一の時の事故収束に頑張る。
・
市民）孫が3人いる。あるおばあちゃんも「だいでん反対しよるやろう。市長はもっと強く言わんのか」と言うぐらい、伊万里市民は塚部（市長）さんが言ってくださったことで、みんな勇気をもって「なんで再稼働さすっちゃろうね」と言っています。そこがなんでわかんないのでしょうか。
武雄、佐賀、伊万里の会場では開会と閉会の挨拶に副島副知事が立ち、「何よりも知っていただくことが大事。何よりも県民の安全が大切と考えている」との空虚な挨拶を繰り返しました。

【5】事故大前提の再稼働。放射能による健康被害の想定は？
一切語らぬ国に怒り爆発！～3／3鳥栖説明会

3 月 3 日、再稼働県民説明会の最終回 5 回目が鳥栖市で開かれました。
玄海原発から県内では一番遠い地域であり、主催者の佐賀県が住民への広報をほとんどやらない中、それでも 117 人の住民が参加しました。11 人からの質問は、今回もすべて再稼働反対でした。
住民の質問に正面から答えない国、九州電力、そして、県民の立場に立たない佐賀県に対して、怒りが爆発しました。

東京電力が福島第一原発事故で放出した放射性物質の量が 10000 テラ（兆）ベクレルだとして、規制基準は 100 テラベクレル以下を要求し、玄海の事故は 4.5 テラベクレルに抑えると国と九電が宣伝している問題では、「その被害が具体的にどうなるのか」というシンプルな質問に、規制庁は具体的に何も答えず、会場は紛糾しました。

参加者からは生活者としての声が相次ぎました。
「農業をしているが、事故が起きたら生活が破たんする、その危機感で今日は来ている。今日の説明は、自ら基準を決めて、これを守ったから合格ですというだけ。福島の核燃料は取り出せない。近づけない。ロボットは何台も壊れている。100 分の1というが、また同じことになっていいのか。自然災害もスケールの大きなものがくるかもしれないし、ひょっとしたら、戦争も。生活する者の身になってほしい。大丈夫というのなら、命をかけて、一筆書いてください」

「命のことを考えてください。地震があるたびに不安です。佐賀は水もきれいだし、空もきれい。おいしい食べ物もいっぱいある。もっと人間のことを思ってください。人間に返ってください！」

＜詳報：放射能による健康被害を一切語らぬ国。県民に寄り添わない県＞
住民）100 テラベクレル、4.5 テラベクレルの放射能が放出されたらどういう被害が及ぶのか、何人の人がどうなるのか？
規制）規制基準を満たしていると考えている。
住民）どうなるのかを聞いている。そんなこともわからないで言っているのか。
規制）基準に基づいて、機器がどうかという観点で審査しており、福島のようなレベルの大量放出に至る可能性は極めて低くなるということ。
住民）福島で聞いた話を紹介する。29 歳のAさんはストレスで毛が全部抜けた。Bさんは高校生の娘にのうほうがみつかった。Cさんは甲状腺摘出手術をした。Dさんは 3.11 後、体調が悪くて仕事にいけない。・・・放射能がどうか因果関係はわからないが、誰にも被害及ばないといえるのか。
一体なにを審査したのか。放射能被害の問題が一番大事でしょう。機器がどうかという問題じゃない。
福島事故から″学んだ″？何を学んだ？福島の人の声に耳を傾けたのか！
規制）福島原発事故を踏まえて、事故を起こさないように基準を…田中委員長も言うように「安全です」といった途端に「安全神話」になってしまう…
住民）また安全神話をつくっている！どういう健康被害になるか答えてください。
規制）100 テラベクレル、4.5 テラベクレルは非常に限定された区域内で…
住民）こういうことにも答えられなくて、何しにのこのこ佐賀まで来たんだ。ちゃんと答えて。
規制）基準により、福島のようなレベルの大量放出に至る可能性は極めて低くなる。
住民B）規制委が最後の砦と思ってる。答えられないなら、だれを信じたらいいのか。
規制）今日は県の要請に基づいて、規制基準適合性審査結果の話をしに来ている。県から言われれば答えますが。
会場）副知事！答えて！
副島副知事）（もごもごと）たいへんご心配していただているところだが、放射能被害を規制基準に盛り込んでいるか、それに対するお答えを規制庁ができるか私は把握しかねるので…
住民）放射能被害のこともわからなくて、あなたは責任とれるのか。みんな心配しているんだ。
副知事）多くの方に来ていただいているので、多くの方に意見を聴いて、お答えして…（この後、県は副知事は何もできず）
規制）100 分の 1 の 100、さらに小さい 4.5 テラを下回ることを審査で確認した。田中委員長が言っているように、リスクはゼロではない。安全だといったら神話になる…
100 テラを下回る考え方を整理してHPに掲載したいと思います…

副知事の閉会挨拶では「住民は全然理解していない」「説明の続きを！」との住民の声が飛び交う中、原稿をただただ読みあげるのが精いっぱいでした。
県民に寄り添って国や九電と立ち向かわない副島副知事の対応が非常に情けなかったです。この方が、知事の下で「原発担当」ということになっていますが、本当に事故が起きた時にも、この人たちの言うことを絶対信じてはならないとますます確信しました。